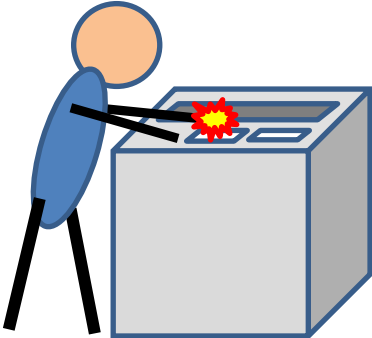
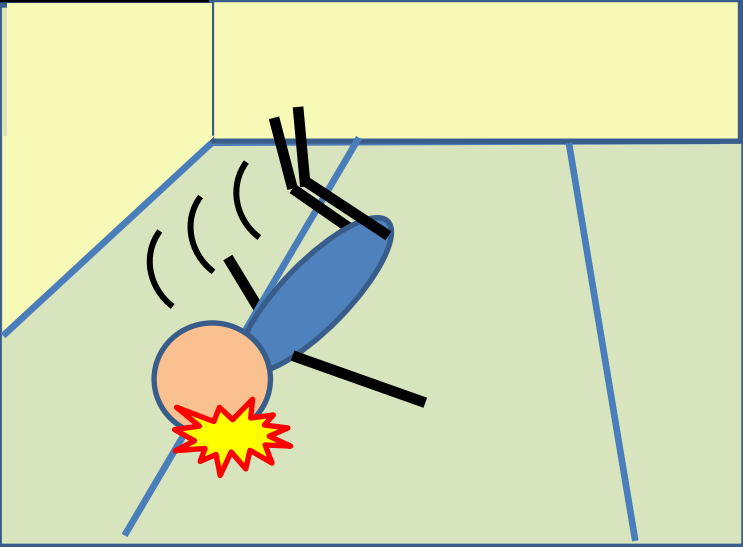



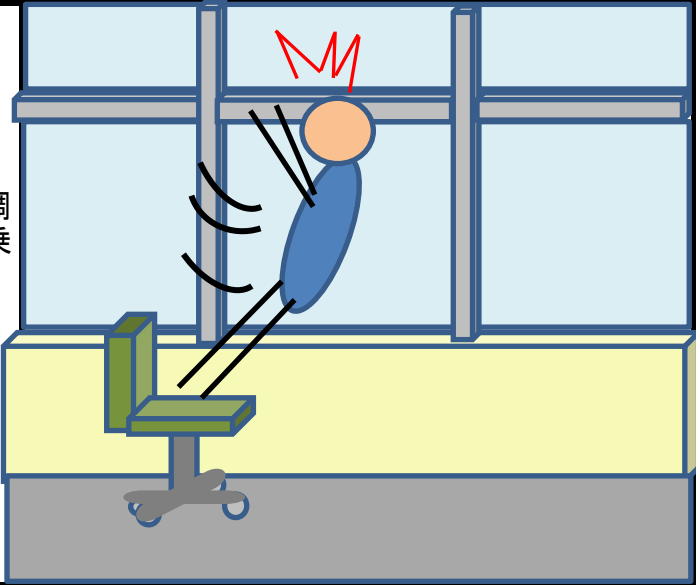
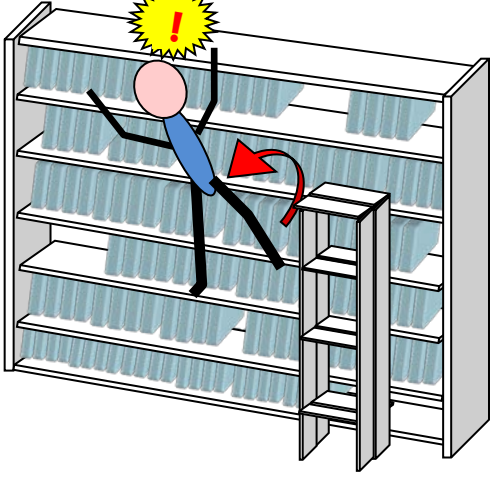
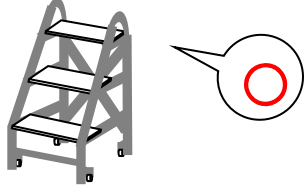


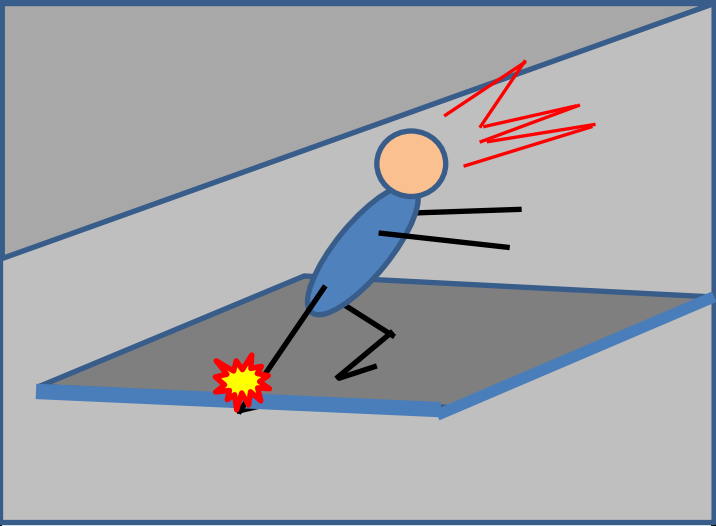
平成22年度国家公務員災害事例(詳細)

1	事故の型	発生日・時	性別・年齢	傷病名	休業日数
	はさまれ・巻き込まれ	8月25日・9時頃	女性・57歳	左示指末節部切断	32日
災害発生状況	<p>会計課事務室において、廃棄書類の裁断処理をしていたところ、紙詰まりが発生したため、シュレッダー投入口付近の紙片を左手指先でつまんだところ、左示指(人差し指)の先端部分が紙片と一緒に引き込まれ同指の一部を切断した。</p>				
発生要因	<p>(機械) 投入カバーを使用しなかったこと。 (教育) 紙詰まり発生時の対応の教育が不十分であったこと。 (行為) 投入口ギリギリのところシュレッダーに指を入れたこと。電源を切らなかつたこと。 (行為) 十分に注意していなかつたこと。</p>				
再発防止策	<p>(機械) 投入カバーを使用する。 (管理) 特に紙詰まり時の対応について注意を促す掲示を行う。 (教育) 紙詰まり時の教育を徹底する。</p>				
類似災害防止のために留意すべき事項	<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center; color: red; font-weight: bold;">一般的なはさまれ・巻き込まれ災害の防止対策</p> </div> <p>◎安全カバーを確実に取り付けること!</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 非常停止、急停止装置は誰が見てもよくわかるように表示し、危険箇所ごとに設置するとともに、作業者が自ら容易に操作できるものにする。 ○ 作業開始前に安全カバー、非常停止装置等の安全装置を点検すること。 <div style="background-color: #ffe6e6; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">KY(危険予知)活動を実施しましょう。</p> </div> <p>KY活動とは、作業を行う前、ミーティングなどで、その作業にひそむ危険を短時間で話し合い、「これは危ないなあ」と危険に気づき、これに対する対策を決め、一人ひとりが実践する活動です。</p> <p>KY活動は以下の効果があります。</p> <p>① 危険を危険と気付く感受性を鋭くする。② 危険に対する集中力を高める。③ 危険に対する問題解決能力が向上する。</p> <p>KY活動を実践するポイントとして、日常の作業や行動を中心にテーマを集めましょう。</p> <p><u>特にヒヤリ・ハット(ヒヤリとした、ハットした)経験を出しあいましょう。</u> (雨で床が濡れたままになっていて滑りそうになった。階段に手すりがないと転落しそうになった。通路にダンボールやコンテナが無造作に積まれていて躓きかけた。脚立の固定金具が壊れていて転倒しそうになった。など)</p>				

2	事故の型	発生月・時	性別・年齢	傷病名	休業日数
	武道訓練	7月15日・14時頃	男性・49歳	頭部打撲、脳震盪、慢性硬膜下血腫	7日
災害発生状況	<p>矯正護身術の講義中、後方受身の練習時に、頸部を前屈するように指導者から指導されており、そのように努力していたが、勢い余って頭部を支えきれず、頸部が後屈したために、畳に頭部を打ち付けることが多々あり、練習後、頭痛が顕著に増強したため、その日の夜に受診したところ、頭部打撲、脳震盪であったものの、再度頭痛が認められるようになった同年8月31日に受診したところ、頭部に（両側ないし左）慢性硬膜下血腫が認められ、手術を行ったもの。</p> 				
発生要因	<p>(管理・教育)何回も頭をぶつけているにもかかわらず、本人が体調不良を申し出るまでそのまま受け身を行わせたこと。また、本人が頭痛、気分不良を訴えた際に受診勧奨など適切な措置を行わなかったこと。</p> <p>(行為)受け身が不十分であった。</p>				
止再対発策防	<p>(管理・教育)頭を何度もぶつけているのであれば、訓練を中止し、適切な対応を行う。</p> <p>(本人)頭部の打撲がみられた際は、無理せず、休憩・医療機関の受診をすること。</p>				
類似災害防止のために留意すべき事項	<p style="text-align: center;">柔道の安全指導 (財)全日本柔道連盟</p> <p>怪我や事故が起きた時の対応</p> <p>1 頭部の打撲の気付と対応 練習中に頭部打撲を目撃したとき、あるいは急に体調不良や頭痛を訴える異変を知ったら、ただちに練習をやめさせ、症状をチェックする。 意識の障害の有無、脳しんとう症状の有無、頭痛、吐き気・気分不良、けいれんなどが特徴的な症状。</p> <p>2 頭部打撲や異変発見直後の対応 ① 意識が少しでもおかしいときは、たとえ軽い脳しんとうと思っても、救急車を要請し脳神経外科の手術が可能な病院へ搬送することが勧められる。 ② 意識がしっかりしていても、頭痛や嘔吐があれば、ただちに救急車を要請し、手術可能な脳外科がある救急病院へ搬送する。何ら症状がなくても練習は見学にし、練習終了時も頭痛や気分不良などの自覚症状をチェックする。</p> <p>3 頭部外傷後の練習休止と復帰の基準 ① 当初からまったく正常な場合であっても1日～数日は練習を休止して、安静観察をする。 ② 医師の診察と頭部画像検査で脳しんとうと診断された場合には、2～4週間練習を休止する。</p>				

3	事故の型	発生月・時	性別・年齢	傷病名	休業日数
	激突	11月22日	女性・38歳	頭部裂創	3日
災害発生状況	<p>庁舎内の書庫において、簿書整理中に、キャビネット上段の扉を開けたまま作業していたところ、立ち上がった際、上段の扉に頭部を強打した。</p>				
発生要因	<p>(管理)開扉のキャビネットを上方に配置した。 (教育)整理整頓教育を徹底していなかった。 (行為)キャビネットを開いていることを忘れていた。 (行為)キャビネットを開けたまま、他のキャビネットを開けた。</p>				
止再対発策防	<p>(管理)開扉のキャビネットを下方に配置する。開扉式から引き戸式のキャビネットにする。 (教育)キャビネットを開いたまま、他のキャビネットを開かない。 (教育)整理整頓教育を徹底する。</p>				
類似災害防止のために留意すべき事項	<p>こんな災害も発生しています</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>床の上に置いていたコンテナで足を強打。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>帳簿の編てつ作業中に、柱に立て掛けていたハシゴが倒れて頭を殴打。</p> </div> </div> <p>通路、階段、出入口に物を放置しない。 物は倒れないようにして置きましょう。</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold; color: yellow;">4S (整理 整頓 清潔 清掃) の徹底を!</p>				

4	事故の型	発生月・時	性別・年齢	傷病名	休業日数
	墜落・転落	7月12日・8時頃	男性・57歳	右橈骨遠位端骨折	175日
災害発生状況	<p>本人が勤務する事務室の空調を調整するため、キャスター付椅子に乗り窓を閉めようとして誤って転倒したもので、踏み台等を使用せず不安定な状態で行為を行ったことが要因である。</p> 				
発生要因	<p>(教育)安全教育が不十分であったこと。 (行為)踏み台を使用しなかった。 (行為)椅子を支えてもらう人を依頼しなかったこと。 (行為)キャスター付椅子に乗って作業したこと。</p>				
再発防止策	<p>(管理)気づいたらやめさせる。 (教育)安全教育を徹底する。 (行為)踏み台を使用すること。 (行為)キャスター付椅子には乗らない。</p>				
類似災害防止のために留意すべき事項	<p>大した高さがなくても危険！「1メートルは一命取る！」 高所での作業は踏み台を使用するなど墜落・転落への注意を万全にしましょう。</p> <p>類似災害 脚立を折り畳んだ状態で使用していたところ、バランスを崩し転倒。</p> <p>対策 ○身近にある回転椅子や折りたたみ椅子を使わず、しっかりした(ステップ付き)踏台を使う。 ○脚立は脚を金具でしっかり固定して使用する。 ○履物は靴底が滑りにくいものにする。</p>  				

5	事故の型	発生月・時	性別・年齢	傷病名	休業日数																																				
	動作の反動・無理な動作	3月17日・10時頃	男性・64歳	右足アキレス腱断裂	14日																																				
災害発生状況	<p>庁舎1階のエレベータホールを抜けて執務室へ向かって歩行中、地震に伴う節電の影響でロビーが薄暗かったため、ロビーに敷いてある雨天転倒防止用マットの縁につまづき転びそうになった際、足を踏ん張り耐えたことにより被災。</p>																																								
発生要因	<p>(管理)ロビーが薄暗かったこと。 (管理)心身機能の変化を考慮した対応・配慮が十分でなかったこと。マットに縁があったこと。テープを張っていないかったこと。 (行為)マットの縁に対する注意が不十分であったこと。</p>																																								
再発防止	<p>(管理)人事院規則で規定する照度を確保する。 (管理)マットの縁をなくす。テープを貼る。 (行為)マットの縁を確認して歩行する。</p>																																								
類似災害防止のために留意すべき事項	<p>執務室や廊下では適正な照度の確保が必要です。 人事院規則では、日本工業規格Z9110及びZ9125に定める照度を維持するよう努めることとなっています。</p> <p>主な作業領域・活動領域の照度範囲(抜粋)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">JIS Z9110:2011</th> </tr> <tr> <th colspan="3">単位:lx</th> </tr> <tr> <th>領域、作業又は活動の種類</th> <th>推奨照度</th> <th>照度範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事務室</td> <td>750</td> <td>1000～500</td> </tr> <tr> <td>会議室、集会室</td> <td>500</td> <td>750～300</td> </tr> <tr> <td>食堂</td> <td>300</td> <td>500～200</td> </tr> <tr> <td>書庫</td> <td>200</td> <td>300～150</td> </tr> <tr> <td>便所、洗面所</td> <td>200</td> <td>300～150</td> </tr> <tr> <td>階段</td> <td>150</td> <td>200～100</td> </tr> <tr> <td>廊下、エレベータ</td> <td>100</td> <td>150～ 75</td> </tr> <tr> <td>玄関ホール(昼間)</td> <td>750</td> <td>1000～500</td> </tr> <tr> <td>玄関ホール(夜間)</td> <td>100</td> <td>150～ 75</td> </tr> </tbody> </table>					JIS Z9110:2011			単位:lx			領域、作業又は活動の種類	推奨照度	照度範囲	事務室	750	1000～500	会議室、集会室	500	750～300	食堂	300	500～200	書庫	200	300～150	便所、洗面所	200	300～150	階段	150	200～100	廊下、エレベータ	100	150～ 75	玄関ホール(昼間)	750	1000～500	玄関ホール(夜間)	100	150～ 75
JIS Z9110:2011																																									
単位:lx																																									
領域、作業又は活動の種類	推奨照度	照度範囲																																							
事務室	750	1000～500																																							
会議室、集会室	500	750～300																																							
食堂	300	500～200																																							
書庫	200	300～150																																							
便所、洗面所	200	300～150																																							
階段	150	200～100																																							
廊下、エレベータ	100	150～ 75																																							
玄関ホール(昼間)	750	1000～500																																							
玄関ホール(夜間)	100	150～ 75																																							